

## 2017年度 3年国語表現Ⅰ シラバス

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科	指導者名
国語表現Ⅰ	2単位	3年	全	選択	普通科	伊志嶺 佳子 印 島袋 典子 印 林 貴子 印 翁長 良尚 印

### 1. 概要及び目標

- ①中学校での学習をもとに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習をバランスよく取り入れたうえで、「読むこと」との関連も視野に入れ、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高めるための、表現する側と表現される側と双方からの立場での実際的なコミュニケーション学習を中心に、高等学校でのすべての学習を支える基礎力を養う。
- ②伝え合う力を高めるための実際的なコミュニケーションを想定した学習を中心に、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、すすんで表現する態度を身につけ、社会性を高める。

### 2. 成績評価

成績の評価は下記の資料に基づいて総合的に行う。

- 提出物
  - 授業の進度に応じ、自宅学習むけに課した課題の提出。
  - 長期休業中の課題の提出。
  - その他、意見文・ノート等の提出。
- 授業
  - 授業の出席状況・発問などに対する主体的な姿勢を評価する。
- テスト
  - 学期に考査を実施する場合もある。
  - 考査は、授業内容からの出題を主とするが、応用問題を含めて出題する。

### 3. 使用教科書・教材

- 教科書:『国語表現Ⅰ 改訂版』(教育出版)
- 副教材:サクセス小論文ノート1(桐原書店)  
サクセス小論文ノート4(桐原書店)  
サクセス小論文ノート7(桐原書店)

### 4. 授業の展開と形態

- 普通科1～6組から選択した2クラス。普通科(特進クラス)9・10組から選択した2クラス。

### 5. 学習方法

- 書き取り・聞き取りをメモにまとめる、要約など、最も基本的な言語能力の確認。
- 発音・発声からスピーチ、プレゼンテーション、その場に応じた会話・発言や発表など、実際的な「話すこと・聞くこと」に関する言語表現の訓練と学習。
- コラム、小論文やレポート、自分史、手紙など実際的な「書くこと」に関連する言語表現の訓練と学習。
- ことば遊びや川柳・広告コピーなど、身近な題材から広がる言語表現をより深める訓練と学習。
- 会議、面接など具体的な場を想定した適切な言語表現をより深める訓練と学習。
- 日本語の基礎となるさまざまな事項(漢字・敬語・構文など)と約束ごと、表現をよりよいものにするための工夫など、言語表現の方法・能力・知識に関する学習。

#### 4. その他(履修上の注意)

- 成績評価は、提出物及びテストを重視するが、授業態度の状況が悪い生徒については厳しく対応する。必要に応じて保護者に通知する。

#### ◎授業計画

月	領域	単元・考査等	学習内容	評価の基準
	1 ことばに 変える	ステップ1 速く正確に書き写す ステップ2 メモを取る・メモで伝える ステップ3 絵をことばにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。</li> <li>・ズームアップ1の学習を通じて、この学習の意味を考える。</li> <li>・情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を確認する。</li> <li>・絵や部屋の間取りをことばに変える作業を通して、ことばによる表現の可能性と限界を理解する。</li> </ul>	書く能力 知識・理解 関心・意欲・態度
5	2 声の 表現	ステップ1 声を出そう(発声・発音) ステップ2 文字を声に変える ステップ3 スピーチの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。</li> <li>・声を発することの本質について深く考える。</li> <li>・文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声の高低や間の工夫について学ぶ。</li> <li>・スピーチのための事前準備について理解し、実際に本番を体験することで、その方法を学ぶ。</li> </ul>	知識・理解 話す・聞く能力 関心・意欲・態度
6	3 コラム・ 本	ステップ1 コラムを読む ステップ2 コラムを書く ステップ3 本を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者を喜ばせる文章の特性を知る。</li> <li>・コラムを読み、文章の魅力と効果的な手法を見つける。</li> <li>・ステップ1で学んだ具体的な手法を意識して、コラムを書く。</li> <li>・よりよい文章表現を工夫する。</li> <li>・基礎的な推敲の方法について理解する。(悪文チェック)</li> <li>・本作りの過程を理解し、実際にコラム集を作製する。</li> </ul>	知識・理解 書く能力 関心・意欲・態度
7	4 ことば 遊びと 創作	ステップ1 ことば遊び ステップ2 川柳を作ってみよう ステップ3 広告コピーを作ってみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなことば遊びの体験を通して、言語表現の多様な側面を理解し、またその楽しさを知る。</li> <li>・川柳という伝統的な文芸ジャンルについて理解を深めるとともに、実作を通して、ことばの持つ批評性を知る。</li> <li>・情報化社会における広告の意味とその特徴を理解し、「広告コピー」を作成することで、情報を客観的にとらえ、批評的に読み取ることを学ぶ。</li> </ul>	知識・理解 関心・意欲・態度
9	5 ことば と人間	ステップ1 ことばの性質を知る ステップ2 関係にはたらきかけることば	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばのもつ順序性からことばの性質について考える。</li> <li>・単語の順序が意味決定を左右することを理解する。</li> <li>・場面における意味決定について理解する。</li> <li>・あいさつや待遇表現のことばが人間関係の調整にどのように働いているか考える。</li> <li>・ことばの可能性と危険性についてさまざまな角度から考える。また、ことばが人間の命を左右するほどの力を持つことを理解する。</li> </ul>	知識・理解 関心・意欲・態度

10	6 小説文・レポート	<p>ステップ1 小論文を書くために</p> <p>ステップ2 「意見」育てる方法</p> <p>ステップ3 構想ノートの作り方</p> <p>ステップ4 小論文生徒作品例と相互評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠を明確にし、意見に説得力を持たせるとともに、対立意見を想定しながら、自らのそれを明確にし、論証の確かさを鍛える。</li> <li>小論文の構成について理解し、論理的文章力を実践的に高める。</li> <li>実際に小論文を執筆して文集にまとめると同時に、他者との相互批評をとおして問題意識や認識を深める。</li> </ul>	<p>知識・理解 書く能力 関心・意欲・ 態度</p>
11	7 会話・会議・発表	<p>ステップ1 会話の目的と機能</p> <p>ステップ2 意思決定・合意形成のための会議</p> <p>ステップ3 プレゼンテーションに挑戦しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書きことばと話しことばの相互変換作業によって、効果的なコミュニケーション技能に習熟する。</li> <li>家族会議の記録を題材に、意思決定・合意形成のための方法やルールについて理解を深める。</li> <li>話しことばの対面コミュニケーションとしての特長を生かした表現技術を学び、効果的な情景の提示方法などについても習熟する。</li> <li>多数決という意思決定の原理について確認する。</li> </ul>	<p>知識/理解 話す・聞く能力 関心・意欲・ 態度</p>
12 ～ 1	8 自己との対話	<p>ステップ1 年譜を作ろう</p> <p>ステップ2 材料を集めよう</p> <p>ステップ3 自分史を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年譜作成をとおして、時代や社会の動きと自己の体験を対比し、その関係について考える。</li> <li>モノに付着している「記憶」＝物語を読み取る。</li> <li>過去の体験に結びつく材料を通して、埋もれていた「記憶」を言語化する。また、自分の過去を記録することについての考えを深める。</li> <li>自分史を書くことの意義と方法について考え、理解を深める。</li> </ul>	<p>書く能力 知識・理解 関心・意欲・ 態度</p>
2	9 世界との対話	<p>ステップ1 場面に応じたことば &lt;手紙&gt;</p> <p>ステップ2 社会とつながることば &lt;面接&gt;</p> <p>ステップ3 発信することば(投書)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解を深める。</li> <li>形式にとらわれない手紙を書くことで、表現の可能性について考える。また、自分らしい手紙の姿を探る。</li> <li>面接における必要な心構えと技能を身につける。</li> <li>自己分析を行い、自己演出を意識して面接という場面における表現のあり方について理解を深めるとともに、表現方法を工夫する。</li> <li>社会の問題に目を向け、実際に投書をする中で、自己のことばを社会に発信する表現行為そのものを実践する。</li> </ul>	<p>知識・理解 関心・意欲・ 態度</p>